

第 24 回産業統計部会結果概要

1 日 時 平成 22 年 12 月 7 日（火）10:05～11:00

2 場 所 総務省第 2 庁舎 6 階特別会議室

3 出席者

（部 会 長）廣松毅

（委 員）縣公一郎、深尾京司

（専 門 委 員）伊藤恵子、近藤正彦、菅幹雄、田井宏介、滝澤美帆

（審議協力者）総務省、財務省、厚生労働省、農林水産省、経済産業省、国土交通省、東京都、愛知県、日本銀行

（統計作成者）経済産業省経済産業政策局調査統計部：杉浦参事官ほか

（事 務 局）内閣府大臣官房統計委員会担当室：若林参事官

総務省政策統括官付統計審査官室：中川統計審査官ほか

4 議 題 鉱工業指数の基幹統計としての指定について

5 議事の概要

(1) 指定の適否及びその範囲並びに答申（案）に係る審議

事務局から、平成 22 年 11 月 19 日に開催された第 40 回統計委員会において総務大臣から諮問された「鉱工業指数の基幹統計としての指定について」の諮問理由等について説明があり、指定の適否及びその範囲について審議が行われた結果、鉱工業指数を基幹統計として指定することは適当であるとされた。

その後、部会長から、答申（素案）についての説明があり、これを踏まえて審議が行われた結果、原案どおり部会として答申（案）が採択され、平成 22 年 12 月 17 日に開催予定の第 41 回統計委員会において部会長から報告することとされた。

(2) 鉱工業指数の作成に関する意見等

委員等から、鉱工業指数の作成に関連して次のような意見、要望等が出された。

- 工業生産指数に係る国際マニュアルでは、生産指数は付加価値の短期的な変動を示す指標を提供することが目的とされ、付加価値の変化から価格の変化の影響を除くため、一般的にデフレーションの方法が推奨されている。我が国における鉱工業指数では、採用品目の約 1 割について金額で把握し、デフレートにより実質化しているが、大部分が数量ベースとなっており、数量ベースにおける価格の影響をどのように考えているのか。
→ 我が国は、諸外国と異なり、経済産業省生産動態統計調査（基幹統計調査）の結果等の一次統計が整備されており、採用品目ごとに数量ベースで直接把握することが可能であることから、数量ベースを基本としているが、品質等の違いから数量での把握が困難な場合に金額による把握を行い、適切にデフレートしている。
- 数量を直接観測して作成した数量指数は、品質の変化が含まれないが、金額を価格指

数でデフレートして間接的に得た数量に基づいて作成した数量指数は、価格指数が品質の変化を除いて測定しているため、数量の方に品質の変化が含まれる。どちらが数量指数として望ましいかは議論の余地がある。

- 経済産業省生産動態統計調査の変更の際も意見があったが、生産能力指数及び稼働率指数の採用品目を拡充していただきたい。
- 以前、鉱工業指数の基礎データとしても利用されている薬事工業生産動態統計調査(基幹統計調査)の審議の際に、公表の早期化と精度の確保について議論されたことがあるが、今後、民間における速報化への要望と政府における精度の確保の両立をどのように図っていくかについて検討することが重要ではないか。例えば、早期化の方法として、米国などの例を参考にして、主要な調査項目については先行的に報告してもらい、詳細な調査項目については後で報告してもらうような工夫も必要ではないか。
 - 薬事工業生産動態統計調査については、調査月の翌々月末に月報を、翌年6月末に年報をそれぞれ公表することとしているが、現在は公表時期が遅れており、公表時期の正常化に向けて、都道府県への督促の要請、オンライン調査の推進等を図っているところであり、引き続き努力したい。